

成果報告書

(地域文化倶楽部創設支援事業)

一般社団法人江原河畔劇場

| | | | |
|-----------|--|-----|-------|
| 所在地 | 兵庫県豊岡市 | 設立年 | 2019年 |
| 運営主体 | 一般社団法人江原河畔劇場 | | |
| 事業目標 | 豊岡市を中心に実施されている「演劇的手法を用いたコミュニケーション教育」の授業において、より演劇に関心を持った児童・生徒の受け皿として本格的な演劇の場を提供する。また、中高生には、公演の実施を通じて、まちづくりや観光など地域の課題に関心を持ってもらう広範なプロジェクトとする。 | | |
| きっかけ | 2020年4月の江原河畔劇場のオープン以来、児童劇団の創設を目標として掲げており、準備が整ったため2021年度より活動を開始した。事業目標にもあるとおり、江原河畔劇場のある豊岡市を中心に「演劇的手法を用いたコミュニケーション教育」事業を積極的に展開しているため、演劇に興味を持った児童・生徒が増えており、その受け皿となっている。 | | |
| 団体・組織等の連携 | <p>メンバー募集や活動の案内チラシを兵庫県但馬地域の教育委員会を通じて対象の学年全員に配布した。指導は劇団青年団の演出家や俳優、技術スタッフが務めた。</p> <pre> graph TD A[児童・生徒] -- 参加 --> B[たじま児童劇団] B -- 機会 --> A C[江原河畔劇場] -- 企画・運営 会場提供 --> B D[劇団青年団] -- 指導 --> B D -- 謝金 --> C </pre> | | |
| 活動場所 | 江原河畔劇場 | | |
| 活動概要 | 小学生の部と中高生の部に分かれ、それぞれ月1~2回の活動を実施。中高生の部では、2021年1月9日~10日に本格的な演劇公演を実施。冬休みを利用して1週間の集中稽古を行なった。指導は全て劇団青年団の演出家や俳優、技術スタッフが務めた。 | | |

○本事業による成果

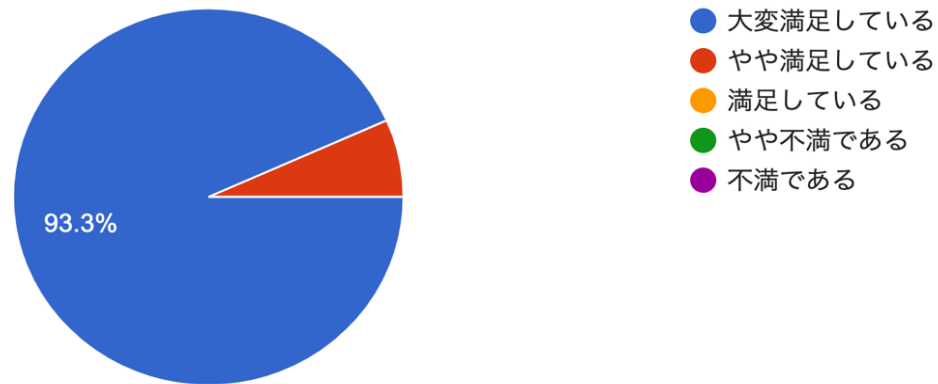
<中高生の部>

◎参加者アンケートより

- ・学校に演劇部がないので応募した。今後も演劇を続けたい
- ・将来、俳優を目指しているので、参加できてとてもよかった
- ・学校では自分から積極的に意見を言うタイプではないが、ここでは自然と自分からコミュニケーションを取ることができた。すぐに学校で活かせるかはわからないけど、今後の自分の糧になると思う
- ・他校の人と仲良くなることができて嬉しかった
- ・今回の活動を通して演劇にはまったので、学校の演劇部に所属した

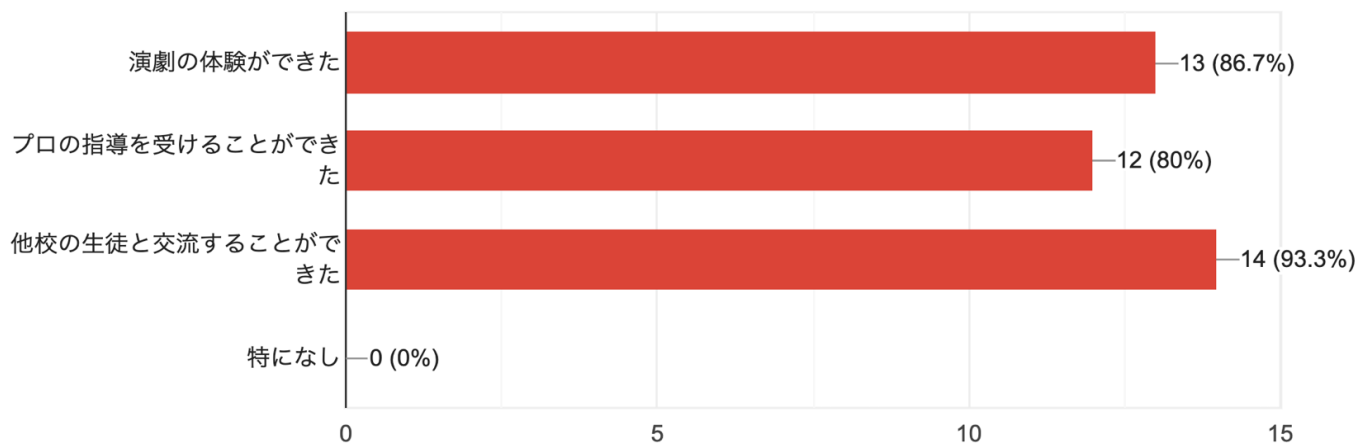
活動内容に満足していますか

15件の回答



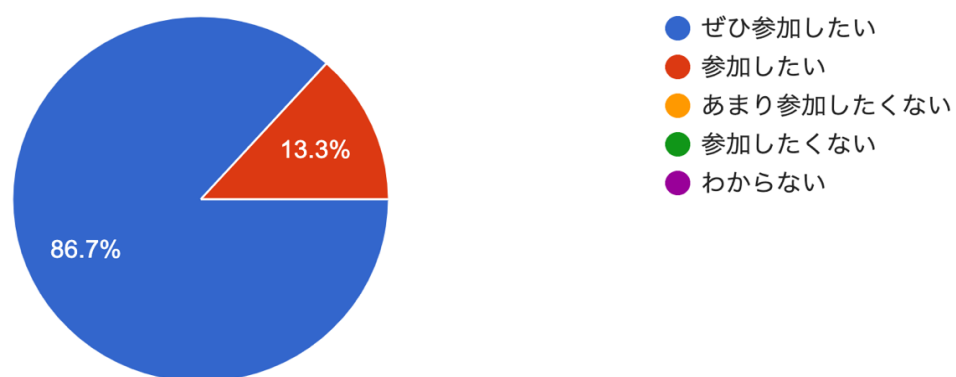
参加してよかったこと

15件の回答



機会があればまた参加したいと思いますか

15件の回答



◎演劇公演の成果

たじま児童劇団 旗揚げ公演『十五少年・少女漂流記』

2022年1月9日(日)-10日(月祝)4ステージ ※当初3ステージの予定が早期完売につき追加公演を実施した。中高生の部15名が出演。延べ395名を動員。複数の新聞に掲載され注目を集めた。

2021 12/17 金曜日
毎日小学生新聞編集部
〒100-8051 (住所不変)
〒100-8051 東京都千代田区千代田1-1-1
0120-468-012
100-8051 東京都千代田区千代田1-1-1
定価 100円750円(税別) 500円1500円(税別)

晋小学生新聞

世界見すえる児童劇団
平田オリザさん旗あげ 兵庫・豊岡



「たじま児童劇団」旗揚げ公演のポスターを手にする平田オリザさん
兵庫県豊岡市で

平田オリザさんは、豊岡市にある芸術文化観光専門職大学の学長を務めています。劇団旗揚げは、5月に兵庫県の但馬・豊岡市町の全小中高から中高生15人の部15名が出演。延べ395名を動員。複数の新聞に掲載され注目を集めた。

旗揚げ公演は、1月9日(日)と10日(月祝)の2日、兵庫県豊岡市の江原河畔劇場で公演されます。旗揚げ公演は、平田オリザさんが約25年ぶりに書き下ろした『十五少年・少女漂流記』。児童劇団を初めて作った平田さんは「公演を見るために世界中から観光客が訪れるような劇団を目指す」と意気込んでいます。

旗揚げ公演は、1月9日(日)と10日(月祝)の2日、兵庫県豊岡市の江原河畔劇場で公演されます。旗揚げ公演は、平田オリザさんが約25年ぶりに書き下ろした『十五少年・少女漂流記』。児童劇団を初めて作った平田さんは「公演を見るために世界中から観光客が訪れるような劇団を目指す」と意気込んでいます。

旗揚げ公演は、1月9日(日)と10日(月祝)の2日、兵庫県豊岡市の江原河畔劇場で公演されます。旗揚げ公演は、平田オリザさんが約25年ぶりに書き下ろした『十五少年・少女漂流記』。児童劇団を初めて作った平田さんは「公演を見るために世界中から観光客が訪れるような劇団を目指す」と意気込んでいます。

「生きる」意味 中高生が熱演

但馬地域などの小中高生でつくる「たじま児童劇団」の旗揚げ公演が9、10日、豊岡市日高町日置の江原河畔劇場であった。同市在住の劇作家で芸術文化観光専門職大学学長の平田オリザさんが子ども向けに約25年ぶりに書き下ろした新作「十五少年・少女漂流記」を中高生15人が等身大の役柄で演じ、「生きること」の表現に挑んだ。(末吉佳希)

「たじま児童劇団」旗揚げ公演 平田オリザさん新作「十五少年・少女漂流記」



同劇団は昨年8月に発足。但馬地域の小中高校を中心に参加を呼び掛け、小学生の部(416名生)と中学生の部(15名)が入団した。今回の公演には、豊岡市、養父、宍粟市と、豊岡、新

思春期の葛藤表現「自然体で楽しめた」

8日の巻頭劇で舞台上に立った中高生たち。江原河畔劇場。

温厚な中高生が参加。旗揚げ公演は、平田オリザさんが約25年ぶりに書き下ろした『十五少年・少女漂流記』。児童劇団を初めて作った平田さんは「公演を見るために世界中から観光客が訪れるような劇団を目指す」と意気込んでいます。

<小学生の部>

◎参加者アンケートより

- ・違う学校の子と仲良くなった
- ・セリフを忘れたときに助けてもらえたり、みんなで練習するのが楽しかった
- ・セリフを考えるのが難しかったけど楽しかった
- ・もっと(活動日)がたくさんあるとよかった
- ・劇場のいろんなところで劇をつくるのがおもしろかった

○児童・生徒への指導に関する工夫

- ・指導者を含めた運営チームで各回終了後にフィードバックを実施した。
- ・劇団青年団に所属するプロの演出家、俳優、技術スタッフによる専門的な指導を行った。
- ・劇場を使って本格的な演劇活動を行った。

○運営上の工夫

- ・江原河畔劇場を拠点とする劇団青年団の劇団員により、安定して指導者の確保ができた。
- ・各市町の教育委員会の協力を得て、学校でチラシを配布したりポスターを掲示した。
- ・保護者との連携はメールを利用した。コロナの感染状況や天候不良などで中止や日程変更があった際も、随時スムーズに連絡をとることができた。

○継続的な運営に関する課題・展望

<活動日の設定>

地域が広いため、参加者の居住地が広範囲に渡る。来年度も基本的には週末と長期休暇を利用する予定だが、将来的には、豊岡市内にある芸術文化観光専門職大学の演劇を学ぶ学生とも協働し、平日放課後の活動プログラム実施に向けて調整を進める。

<活動経費>

今年度は不足金額を別事業の収益から補填したが、継続的な運営を行うために次年度からは参加費を徴収する。

<保険の加入>

全員スポーツ安全保険に加入してもらった。今後も継続する。

<教育機関、地域等との連携>

近隣自治体の教育委員会や学校を通して、メンバー募集のチラシや演劇公演のチラシ・ポスターを学校に掲示・配布を行なった。近隣商店街では演劇公演のポスター掲示や置きチラシを受け入れてもらうなど、広報活動の協力を得た。

<広報活動>

記者発表を行い、新聞等マスコミに多く取り上げられ注目を集めた。豊岡市広報誌等でも大きく取り上げられ、初年度から大きな実績を残すことができた。参加希望者が増えることが予想されるため、受け入れ態勢を強化する。

<新型コロナウイルス感染症対策>

活動開始前に新型コロナの感染拡大を理由に1名辞退者が出た。感染状況を見て活動日を変更したり、公演に向けてPCR検査や抗原検査を繰り返したり安全な運営に務めたが、検査費用など感染症対策費が予算を超過し

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・計画

- ・参加者へのアンケートからも、演劇創作を通じて他校生と交流ができたことが満足度やモチベーションにつながっていることがわかった。学校単位の部活動ではなく、地域の部活動となることで生じた価値の一つであり、部活動を地域移行する意義が強く感じられたため、広範に公募をかける形は継続する方針。
- ・当劇場から最も近い兵庫県立日高高校にヒアリングを行い、令和4年度より既存の演劇部の活動を部分的に移行する方針で合意を得た。前項でも記した通り、当劇場のある豊岡市地域が広範囲に及ぶため、まずは最も近い高校と連携し、徐々に広域に広げながら継続可能な形を模索しながら段階的な移行を目指す。
- ・平日の放課後に活動可能な運営体制を構築し、通うことのできる範囲の児童・生徒を受け入れる。
- ・成果発表として本格的な演劇公演を行うことで、地域住民に楽しんでもらうとともに、地域の誇りとなる活動を展開する。

| | |
|---------------|--|
| 参加者 (予定人数) | 小学4年生～高校3年生 29人 (予定人数:小学4年生～高校3年生 40人) |
| 募集方法 | チラシ配布、ポスター掲示、学校での通知、SNSでの告知 |
| 指導者 | 連携団体からの実演家3名 |
| 移動手段 | 保護者による送迎 |
| 活動費用 | 無料 |
| スケジュール | <小学生の部> 月1～2回、90分/回 9月と1月発表会を実施 <中高生の部> 月1～2回、120分/回 1月に公演を実施 |
| 保険加入等 | スポーツ安全保険 29名 |

【活動の様子（写真添付）】



中高生の部:常活動風景



中高生の部:舞台写真



中高生の部:舞台美術製作風景



中高生の部:舞台写真



小学生の部:活動風景



小学生の部:活動風景



小学生の部:活動風景